

**地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う
地区懇談会結果報告書**

**平成 30 年 3 月
西東京市**

目次

I 実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 参加者	1
3. 参加状況	1
4. 実施方法	2
II 課題のまとめ	5
III 圏域ごとの結果	6
1. 西部圏域	6
2. 北東部圏域	7
3. 中部圏域	8
4. 南部圏域	9
IV 熊田先生講評（要旨）	24
参考資料	25
1. 西部圏域	25
2. 北東部圏域	36
3. 中部圏域	47
4. 南部圏域	56

I 実施概要

1. 調査の目的

地域福祉計画・地域福祉活動計画の期間が平成 30 年度で終了することから、次期計画を策定するにあたって、地域で生活・活動する市民目線での、地域の現状や課題、解決アイデア等を話し合っただくことを目的とする。

2. 参加者

市民・ほっとネット推進員・民生児童委員・地域包括支援センター・ささえあい訪問協力員・ふれあいのまちづくり・青少年育成会・自治会・町内会・PTA など

3. 参加状況

地区	対象地域	回	日付	参加者数
西部	西原町・緑町・谷戸町・芝久保町・ひばりが丘	第1回	1/16(火)	22
		第2回	1/23(火)	中止(天候不順)
		第3回	1/30(火)	23
北東部	富士町・中町・東町・ひばりが丘北・栄町・北町・下保谷	第1回	1/17(水)	24
		第2回	1/24(水)	20
		第3回	1/31(水)	18
中部	田無町・北原町・保谷町・泉町・住吉町	第1回	1/18(木)	26
		第2回	1/25(木)	20
		第3回	2/1(木)	18
南部	南町・向台町・新町・柳沢・東伏見	第1回	1/19(金)	27
		第2回	1/26(金)	25
		第3回	2/2(金)	25
全地区合同		第4回	2/16(金)	80

4. 実施方法

第1回から第3回は4圏域ごとに実施し、発表会は4圏域合同で行いました。

	実施内容
第1回	オリエンテーション／課題の抽出 活動を通じて感じる現状や課題を抽出 ・全体で、簡易ワールドカフェで意見出し ・グループごとに、課題をフセンに書いて整理
第2回	解決アイデアの検討① それぞれの課題について、解決のアイデアを話し合う ・全体で、簡単な事例共有 ・グループごとに、解決アイデアを出し、フセンを第1回の課題分類ごとに振り分け
第3回	解決アイデアの検討② 発表準備 市や社協に手助けしてほしいことを話し合い、発表準備をする ・グループごとに、第2回のアイデアについて、その中で市や社協の手助けが必要なことについて話し合い、フセンを追加する ・全体で、特に重要だと思うテーマを選ぶ ・発表者を決める
発表会	発表 圏域ごとに発表し、結果を共有 ・1回目から3回目の内容をまとめ、発表

第1回から発表会までの実施方法の詳細については下記のとおりです。

第1回

①小グループで席替えを繰り返しながら、『身近な地域での困りごと』について話し合いを行いました。



②3つのグループに分かれ、個人個人で困りごとをフセンに書き出して発表し、出てきたフセンを分類しました。



第2回

①全員で輪になり、地域で取り組んでいる活動について共有しました。



②3つのグループに分かれ、個人個人で地域で協力できる解決アイデアをフセンに書き出して発表し、出てきたフセンを分類しました。



第3回

①3つのグループにわかれ、個人個人で市・社協にお願いしたい解決アイデアをフセンに書き出して発表し、出てきたフセンを分類しました。



②重要だと思う項目にシールをはり、全体で発表項目をどうするか話し合いました。



発表会

①各圏域の代表者から発表を行いました。



②市・社会福祉協議会の地域福祉計画・活動計画策定委員会の委員長である熊田先生から講評をいただきました。



II 課題のまとめ

4 圏域共通の課題概要は下記のとおりとなります。

■地域の付き合いが弱い・意識醸成が必要

あいさつをしない人が多くなった／近所付き合いが難しい／つながりが希薄化している
／転入出が多くつながりがつくりづらい／自治会が無い・少ない など

■地域の居場所や交流の場所が少ない・ない

多世代での交流や場所がない／居場所やサロンが近くにない／集まる場所がない／空き
家が増えているが活用の仕方が分からない など

■情報が届かない・相談先が分からない

市や社協の取り組みやサービス等の認知度が低い／相談先が分からない／回覧板が周ら
ない・廃止された／一人暮らしの人や転入者、外国人などへ情報が届きにくい など

■担い手不足・困っている人の把握が困難

ボランティアの高齢化／活動者が固定化している／困っている人がどこにいるのか分か
らない／制度の狭間となって困っている人がいる など

■交通の不便さ・買物難民

坂が多く移動が大変／交通の便が悪い／はなバスのルートが無い地域や使いづらい地域
がある／買い物や病院に行けない／コンビニやスーパー、商店が閉店していく など

■災害について

日頃のつながりが無く災害時の孤立が心配／防犯無線が聞こえない／災害時の対応方法
がわからない など

Ⅲ 圏域ごとの結果

1. 西部圏域

A班

- ・みんなの意識
- ・地域力が弱い・近所つき合いが少ない
- ・コミュニティの活性化が重要
- ・SOSを発信する力と受けとめる力
- ・居場所が必要
- ・交通弱者への支援
- ・道がわかりづらい

B班

- ・空き家
- ・相談先がわからない
- ・移動手段
- ・子どもたちの成長をさまたげている
- ・環境の変化
- ・自転車の乗り方
- ・つながりがない・担い手がない
- ・高齢化

C班

- ・ハード面での整備
- ・交通マナーモラルの問題
- ・高齢化による問題点
- ・活動の継続が大事
- ・場所がない
- ・イベント、集まりの充実が必要・交流が必要
- ・情報がいき届かない
- ・移動手段がない

西部圏域の困りごと

①みんなの意識醸成が必要	みんなで助けあう？みんなってだれ？／子どもの声がうるさいと苦情を言う市民がいる
②交流が重要	隣近所の顔も知らない／多世代での交流が必要／地域に出て来ない人を誘い出すのに苦労がある
③相談先が分からない	相談の夜間、休日の窓口がない／ちょっとした困りごとを助けてもらいにくい／困りごとの相談先不明
④情報が行き届かない	一人暮らしの方への情報が届きにくい／外国人の情報提供

◆地域で行っていききたいこと □市や社協に期待すること

- | | |
|---|---|
| <p>①みんなの意識醸成が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域で活動している人を把握 ◆防災訓練などみんなで行う行事 ◆自治会に助け合いの必要性を働きかけ ◆雪かき等自分の身に関わることから活動 □ 地域の活動者を市全体として把握する □ それぞれの地域に具体的なミッションを!! □ 危機感アップで活動につながる <p>②交流が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆同じ地域のサロンどうしの交流 ◆引きこもりがちの人への声掛け ◆地域型スポーツクラブの利用 ◆得意分野を持ち、世代間交流を ◆若い人のボランティア参加の促進 | <p>③相談先が分からない</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆気軽に相談できる場所をつくる ◆周知に力を入れる（色々な発信手段やチラシ等の工夫） □ 「ほっとネット」の充実 □ 「暮らしの手帳」の浸透 <p>④情報が行き届かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆町会を通じた情報提供 ◆民生委員を補助する方を募集 ◆まずはあいさつや声かけで顔を知ってもらう □ 総合窓口のような相談受付場所が設けられると、とりあえずつながり、安心できる |
|---|---|

2. 北東部圏域

A班

- ・災害時の孤立が心配
- ・地域のつながりが希薄化している
- ・自治会のあり方に課題がある
- ・困りごとがわからない
- ・地域の活動が十分に知られていない
- ・ボランティアの不足
- ・参加者の固定化
- ・交通の便が悪く買い物や通院が不便

B班

- ・バリアフリー化
- ・隣近所のつながりがない
- ・地域の居場所が少ない
- ・ハード面の不足
- ・情報の不足
- ・交通手段の不足
- ・買い物難民

C班

- ・近所付き合いが無い
- ・交通の便が悪い・買い物が不便
- ・子育て施策の不足
- ・行政のPR不足
- ・自治会は必要？
- ・居場所の提供
- ・個人情報の弊害
- ・市は計画性を！

北東部圏域の困りごと

①つながりが減り、特に災害時の孤立が心配	つながりが希薄化している／あいさつをしない人が多い／地域から孤立している人もいる／自治会が無い・少ない／災害時の孤立が心配
②地域の居場所が少ない・わからない	居場所やサロンが近くにない／活動の場がない／多世代交流の場がない
③交通の便が悪く、買い物や通院が大変	交通の便が悪い／買い物や病院に行けない／駅までの足が無い／バスルートが無い地区がある

◆地域で行っていきいたいこと □市や社協に期待すること

①つながりが減り、特に災害時の孤立が心配

- ◆自治会にこだわらない
「ゆるやか」なグループ作りをしよう！
- ◆イベントの対象者や内容を工夫しよう！
- ◆『防災』をきっかけにしよう！
- 「ゆるやかな」グループづくりを
呼びかけしてください！

②地域の居場所が少ない・わからない

- ◆自宅や空き家を活用して居場所を作ろう！
- ◆民間に協力を仰ぎ、居場所を作ろう！
- ◆自宅の門や塀を活用した「街かど掲示板」を作ろう！
- 空き家活用の支援をしてください！
- ジャンルを越えた「地域の居場所マップ」を作ってください！

③交通の便が悪く、買い物や通院が大変

- ◆住民ボランティアや福祉法人、民間企業が
 - ・移動販売
 - ・買い物ツアー
 - ・巡回バス を担う！

- これらを実施するための
車両やガソリンなどの確保をしてください！
- はなバスを見直ししてください！

最後に・・・

- ・地区懇談会の内容はまず行政内で共有してください！
- ・相談窓口をわかりやすくし、部署を超えた連携をしてください！
- ・協働って・・・？ 連携って・・・？

3. 中部圏域

A班

- ・行きやすい交流の場づくり
- ・参加しなくなる内容づくり
- ・支援が必要な人の対応
- ・地域の情報を知る機会が少ない
- ・福祉意識
- ・担い手

B班

- ・自治会が減っている
- ・地域の人との関わりが希薄
- ・孤立している人がいる
- ・関わり方がわからない
- ・SOSの発信ができない

C班

- ・自治会、町内会の維持が難しい
- ・地域のつながりが希薄
- ・居場所づくりの進め方
- ・地域の困りごと、人が見えてこない
- ・地域の人材づくり
- ・人のあつめかた
- ・災害時の対応

中部圏域の困りごと

①交流の場の減少と参加者の固定化	集まる場所が無い／自治会がなく地域の情報が入らない／自治会の出席率が悪い・まとまりがない
②地域のつながりと自治会の低迷	閉じこもりがちな高齢者をどう引き出すか／困っている人が見えない／制度の狭間
③活動の担い手不足(人材の発掘)	ボランティアの高齢化／いつも同じ顔ぶれで広がりが無い／地域の人的資源をどうピックアップするか

◆地域で行っていききたいこと □市や社協に期待すること

①交流の場の減少と参加者の固定化

- ◆学校を拠点とした活動や情報発信を進め、世代間の交流を図る
- ◆地域の連携で子どもの居場所を拡充する
- ◆魅力あるイベントやサロンを増やし、参加者の掘り起こし、地域の活性化を図る
- 要配慮者でも行きやすい商店街の空き店舗等をサロンとして使用したい

②地域の繋がりや自治会の低迷

- ◆あいさつ運動等声かけの習慣を定着させる
- ◆地域ぐるみで子どもの見守り活動をする
- 自治会の必要性等の広報と補助の充実
- 制度の狭間にいる人の情報共有と見守り、SOSの吸い上げ(関係部門の連携による包括的な取組)

③活動の担い手不足(人材の発掘)

- ◆人脈活用やNPO、民生委員等の団体を通じて継続的な人材発掘を行う
 - ・近隣の人や学校の保護者とその家族
 - ・シルバー人材センターや「りんく」への登録者
- ◆中学校、高校、大学との連携を進める
- ネット掲示板を導入し幅広く人材を募る

(参考) SNSによる地域の情報交換アプリの導入

- ★一定の地域を対象にした情報交換アプリで、地域の繋がりを作るため一部の自治体も導入している。
- 導入自治体：渋谷区、文京区、豊島区、港区、他

4. 南部圏域

A班

- ・買い物難民
- ・情報の共有化不足
- ・近所づきあい
- ・環境整備
- ・災害
- ・ケアラースカフェ
- ・家族支援
- ・制度の狭間

B班

- ・生活難民
- ・情報が届かない
- ・災害時における知識の共有
- ・近所づきあい、自治会
- ・地域子ども達とのかかわり方
- ・「ひとり暮らし」の方への支援・「認知症」への理解
- ・地域活動へのサポート
- ・行政に考えてほしい事

C班

- ・公共交通整備不足・近所の店不足
- ・情報弱者・専門機関の情報発信不足・拠点の認知不足
- ・自治会がない・地域活動の困難さ
- ・高齢者
- ・近所のつながり不足
- ・コミュニケーション
- ・若い人
- ・防災・防犯

南部圏域の困りごと

①近所付き合いが薄れている	近所付き合いが難しい／あいさつをしない人がいる／転入出が多くつながりにくい
②情報発信の不足	回覧板が回らなくなった・なくなった／転入者に情報が入らない／包括や社協の知名度が低い
③災害時の知識共有	防犯無線が聞こえない／消火器の場所を知らない／防災の取り組みの周知が不足している
④交通の不便さ・生活難民	坂が多く移動が大変／コンビニ・スーパー・商店が閉店していく／買い物難民／はなバスが使いづらい

◆地域で行っていききたいこと □市や社協に期待すること

①近所付き合いが薄れている

- ◆まずは、あいさつ・声掛けから
- ◆おせっかいおばさんになる
- ◆カフェ・サロンやイベントをうまく活用
- ◆町内ごとのイベントの開催
- 自治会の立ち上げサポートをしてほしい
- ボランティアポイントを使いやすくしてほしい

②情報発信の不足

- ◆口コミの活用
- ◆活動に参加すると情報が得られる
- ◆市民掲示板の活用
- 掲示板の活用・増やしてほしい
- 多様なツールを活用（SNSなど）
- 市報やホームページを見やすくしてほしい

③災害時の知識共有

- ◆避難訓練は、声を掛け合って参加を
- ◆一人暮らしなど避難の支援が必要な人の情報集約
- ◆防災は自分達で確かめる、歩く、調べる
- 「命のハンカチ」を実施
- 中学生の雪かきなど若い力の活用
- FM放送の再検討

④交通の不便さ・生活難民

- ◆有償ボランティアで運転や買い物のサポーターをつくる
- ◆宅配や共同購入、ネット通販を活用
- ◆買物ツアーを実施
- ◆商店と連携し、御用聞きが来てくれたら！
- はなバスの増便・ルート見直し
- 小回りの利く新たな交通

■発表会スライド

発表会で使用したスライドは、下記のとおりです。





西部圏域

困りごと

- ①みんなの意識醸成が必要
- ②交流が重要
- ③相談先が分からない
- ④情報が行き届かない

①みんなの意識醸成が必要

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 地域で活動している人を把握
- ◆ 防災訓練などみんなで行う行事
- ◆ 自治会に助け合いの必要性を働きかけ
- ◆ 雪かき等自分の身に関わることから活動
- 地域の活動者を市全体として把握する
- それぞれの地域に具体的なミッションを!!
危機感アップで活動につながる

5

②交流が重要

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 同じ地域のサロンどうしの交流
- ◆ 引きこもりがちな人への声掛け
- ◆ 地域型スポーツクラブの利用
- ◆ 得意分野を持ち、世代間交流を
- ◆ 若い人のボランティア参加の促進

6

③相談先が分からない

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 気軽に相談できる場所をつくる

□ 周知に力を入れる

(色々な発信手段やチラシ等の工夫)

□ 「ほっとネット」の充実

□ 「暮らしの手帳」の浸透

④情報が行き届かない

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 町会を通じた情報提供

◆ 民生委員を補助する方を募集

◆ まずはあいさつや声かけで

顔を知ってもらう

□ 総合窓口のような相談受付場所が
設けられると、つながり、安心できる

～北東部～

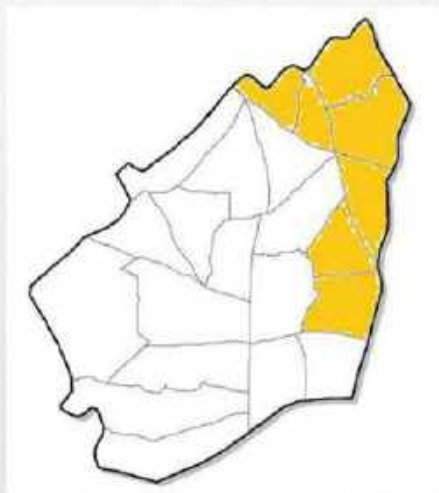
■ 該当地区

北部:

ひばりが丘北・栄町・
北町・下保谷

東部:

東町・中町・富士町



北東部圏域

困りごと

- ① つながりが減り、
特に災害時の孤立が心配
- ② 地域の居場所が
少ない・わからない
- ③ 交通の便が悪く、
買い物や通院が大変

①つながりが減り、 特に災害時の孤立が心配

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 自治会にこだわらない

「ゆるやか」なグループ作りをしよう！

◆ イベントの対象者や内容を工夫しよう！

◆ 『防災』をきっかけにしよう！

□ 「ゆるやかな」グループづくりを

呼びかけしてください！

11

②地域の居場所が 少ない・わからない

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 自宅や空き家を活用して居場所を作ろう！

◆ 民間に協力を仰ぎ、居場所を作ろう！

◆ 自宅の門や塀を活用した

「街かど掲示板」を作ろう！

□ 空き家活用の支援をしてください！

□ ジャンルを越えた

「地域の居場所マップ」を作ってください！

12

③交通の便が悪く、 買い物や通院が大変

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 住民ボランティアや福祉法人、民間企業が

- ・移動販売
- ・買い物ツアー
- ・巡回バス を担う！

□ これらを実施するための

車両やガソリンなどの確保をしてください！

□ はなバスを見直ししてください！

13

- ・地区懇談会の内容は
まず行政内で共有してください！

- ・相談窓口をわかりやすくし、
部署を超えた連携をしてください！

連携って…？
協働って…？

14

～中部～

■該当地区

住吉町・泉町・
北原町・保谷町・
田無町



15

中部圏域

困りごと

- ①交流の場の減少と
参加者の固定化
- ②地域のつながりと自治会の低迷
- ③活動の担い手不足(人材の発掘)

16

①交流の場の減少と

参加者の固定化

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 学校を拠点とした活動や情報発信を進め世代間の交流を図る
- ◆ 地域の連携で子供の居場所を拡充する
- ◆ 魅力あるイベントやサロンを増やし、参加者の掘り起こし、地域の活性化を図る
- 要配慮者でも行きやすい商店街の空き店舗等をサロンとして使用したい

17

②地域の繋がりと自治会の低迷

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ あいさつ運動等声かけの習慣を定着させる
- ◆ 地域ぐるみで子供の見守り活動をする
- 自治会の必要性等の広報と補助の充実
- 制度の狭間にいる人の情報共有と見守り、
SOSの吸い上げ
(関係部門の連携による包括的な取組)

18

③活動の担い手不足(人材の発掘)

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

◆ 人脈活用やNPO、民生委員等の団体を通じて継続的な人材発掘を行う

・近隣の人や学校の保護者とその家族

・シルバー人材センターや

「りんく」への登録者

◆ 中学校、高校、大学との連携を進める

□ ネット掲示板を導入し幅広く人材を募る

19

(参考) SNSによる地域の 情報交換アプリの導入



**アプリで
近所付き合い!**

★一定の地域を対象にした情報交換アプリで、地域の繋がりを作るため一部の自治体も導入している。

渋谷区、文京区、
豊島区、港区、他

20

～南部～

- 該当地区
南町・柳沢・
東伏見・向台町
新町



21

南部圏域 地域特性

石神井川が流れており、
坂が多い



22

南部圏域

困りごと

- ①近所付き合いが薄れている
- ②情報発信の不足
- ③災害時の知識共有
- ④交通の不便さ・生活難民

23

①近所付き合いが薄れている

◆ 地域で行っていききたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ まずは、あいさつ・声掛けから
- ◆ おせっかいお婆さんになる
- ◆ カフェ・サロンやイベントをうまく活用
- ◆ 町内ごとのイベントの開催
- 自治会の立ち上げサポートをしてほしい
- ボランティアポイントを使い易くしてほしい

24

②情報発信の不足

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 口コミの活用
- ◆ 活動に参加すると情報が得られる
- ◆ 市民掲示板の活用
- 掲示板の活用・増やしてほしい
- 多様なツールを活用(SNSなど)
- 市報やホームページを見やすくしてほしい

25

③災害時の知識共有

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 避難訓練は、声を掛け合って参加を
- ◆ 一人暮らしなど避難の支援が必要な人の情報集約
- ◆ 防災は自分達で確かめる、歩く、調べる
- 「命のハンカチ」を実施
- 中学生の雪かきなど若い力の活用
- FM放送の再検討

26

④交通の不便さ・生活難民

◆ 地域で行っていきたいこと

□ 市・社協に期待すること

- ◆ 有償ボランティアで運転や買い物の
サポーターをつくる
- ◆ 宅配や共同購入、ネット通販を活用
- ◆ 買物ツアーを実施
- ◆ 商店と連携し、御用聞きが来てくれたら！
- はなバスの増便・ルート見直し
- 小回りの利く新たな交通

27

IV 熊田先生講評（要旨）

各圏域から出された課題

- 1 地域のつながりや、地域の付き合いが弱い
 - ・地域でつながりをつくるため西東京ではふれあいのまちづくりや、ほっとネット、りんく等が様々な取り組みがあるがあまり知られていない。
 - ・様々な取り組みがあり過ぎて、十分に機能していないというところがある。
- 2 地域の居場所や交流の場所
 - ・ふれまちやほっとネットの中でも居場所づくりをしており、居場所が増えている中で、量から質という段階に来ている。
 - ・空き家や学校の活用や、既存の施設や機関を使うなど、今、使われていないものを使っていくということも検討する必要がある。
- 3 情報発信や相談先が分からない
 - ・ほっとネットシステムにより、地域福祉コーディネーター等に相談ができる体制をつくってきたが、あまり認知されていない。
 - ・様々な相談窓口を一本化していくということが、今後、計画の中で求められていく。
- 4 担い手等の掘り起こし
 - ・地域でつながりをつくっていく中で、新しい担い手が見えてくるのではないか。
 - ・市内には、様々な社会資源があるので、どのように連携していくかも課題となる。
- 5 移動困難地域
 - ・西東京市は、横の移動は比較的容易だが、縦のラインが非常に難しく、移動困難地域が存在する。はなバスの整備等、他の部署とどれだけ連携ができるかが重要。
 - ・ハード面のみならず、ソフトの面で移動や買い物の困難を解消できないかの検討が必要。
- 6 災害について
 - ・災害に対する認識が薄れてしまうため、忘れないような取り組みが日常的にできるのが課題。

計画策定にあたり重要となる点

- 1：単独で考えるのではなく、つなげて考えていくこと。また、課題等についても優先順位を考えて行っていくこと。
- 2：他人事と思わず、各々が当事者意識をもてるような仕掛けをつくっていけるかが重要。
- 3：地域の特性を踏まえる。西東京はそれぞれの圏域によって地域性が異なるため、地域性を踏まえた形で作っていくこと。
- 4：既存の取り組みの整理：旧来あるもの、西東京市が今まで大事にしてきた、ほっとネット、ふれまち、ささえあいネットワークなどの取り組みを大事にしながら、使いやすくしていくこと。

参考資料

第1回から第3回目まで、各圏域でいただいたご意見を掲載しています。圏域の中で、3つのグループに分かれてグループワーク等を行ったため、各グループから出た意見を、グループごとに掲載しています。

1. 西部圏域

グループA

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
みんなの意識 (13)	<ul style="list-style-type: none"> • みんなで助けあう？みんなってだれ。 • 苦情を言う市民への対処方法は。 • 公園で遊ぶ子どもの声がうるさいと苦情がくる。 • 「居場所」への理解がない市民もいる。 • 認知症の方が多い。 • 子どもを「認知症サポーター」に!! 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の自治会などに働きかけ。 例) 首都直下地震でその家はこわれない? 助けるのはだれ? • 防災の視点から。 • 防災訓練などみんなで行うイベントを企画。みんなで役員をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域で活動している人を全体として把握する! いろいろいるのに埋もれている。 • 中学生を防災で地域につなげる。 • 引き取り行事の時に地域で防災訓練とか。 • それぞれの地域に具体的なミッションを!! 危機感UP。活動につながる。
地域力が弱い (1)	<ul style="list-style-type: none"> • 「地域力」を育む勉強会などをたくさんやろう! • 通学区域が変更になった所に「地域力」を。 • 子どもと高齢者のコラボ企画を!! • 雪かきなど自分に関わるところから取り組んでもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつ運動できる人からでも。 • 雪かきボランティアを事前に募っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市報に! 「雪かきは愛」「1家に1本雪かきスコップ」元気な人は雪かきしてネ!

<p>近所つき合いが少ない(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・となり近所の人の事を知らない。 ・近所つき合いがない。 ・歩いていて知人に会わなくなった。 ・防災おとなり組づくりませんか？ ・子どもが一人でおるす番。地震の時その子はどうする？若い人にもとなり近所の助けあいは必要！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・向こう三軒を気にする運動をする。 	
<p>コミュニティの活性化が重要(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会がない又は機能していない。 ・コミュニティを作る為の協力者が少ない。 ・どこの団地でも高齢化が進み自治会としてのお祭りなどが出来ない。 ・高齢者が多く若い方の入会が少ない。存続が難しい。 ・イベントをやっても知りあいは増えない。という事実！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・若いボランティアの方を発掘する。 ・大人から子どもまで年をとる前に地域にかかわる！中学生をまきこむ。 ・小学校低学年のうちからボランティア活動(地域の人達とゴミ拾いと)かする習慣。 ・定期的に訪問してくれるボランティア(住民)を募ってみる。あわよくばこういう方達と交流を兼ねてお祭り等一緒に企てる。 ・元気な高齢者が自主的に活動する場。高齢者活用機会をつくる。 ・元気な高齢者が地域づくり。アルバイトにもなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアなら若い人が増える。補助金下さい。 ・独身の男女(若年)を上手く取り込む為の仕組み。
<p>SOSを発信する力と受けとめる力(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとがあってもSOSを出さない高齢者もいる。 ・困った人のSOSを受けとめる人材をたくさん育てよう！ ・色々サービスがあるのに、利用を拒む世帯(保護者)がいる。 ・ひとり住まいの人、家でたおれた時見つけてくれる人はいますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしの方で夜になっても電気が付かない所を、気をつけて声かけをしている。 ・包括をもっと周知して相談しやすいところにする。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる所は自治会がしっかりしているので老人宅の把握は出来ていて見守りはしている。 エレベーターのない住宅で高齢者の孤立がある。 		
居場所が必要(2)	<ul style="list-style-type: none"> 引きこもり(外に出たがらない)家族がいる。 子どもの居場所が足りない。 「子ども食堂」が市内にもっと増えると良い。 外国籍の市民の方たちとの交流企画を。 	<ul style="list-style-type: none"> 今ある居場所をもってアピール周知し活発化する。 子ども食堂、子どもの居場所のつくり方を小学校ごとにレクチャーする企画をしてみる？ 	<ul style="list-style-type: none"> サークル同士の交流会、役員の手助け、アドバイス、サポートの強化。
交通弱者への支援(4)	<ul style="list-style-type: none"> はなバスの交通ルートをもっと増やしてほしい。 お年寄りが移動するための交通手段が少ない。 地区によって交通、買い物が不便。 外出したくても、付き添ってくれる家族が身近にいない。 坂道が多く、独りで歩いて外出ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行器を使う高齢者がバスに乗り易いように車内アナウンス「持ち運びを手伝って下さい」 	<ul style="list-style-type: none"> 市報、バス会社のポスターでPR。
道がわかりづらい(1)	<ul style="list-style-type: none"> 迷子。 地図、目印にしていたものが無くなった。 行きたい場所に行けない。道路に目印が少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> 道に迷いやすいところに看板をつくる。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ご高齢になると小中学校の場所を知らなかったりする。(災害時の避難) ・子どもの数が少ない。 		
-----	---	--	--

グループB

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
空き家(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、廃校が活用されてない。(社会資源全般) ・空き家。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店が少ない。 ・困難発生時協議体形成。 ・ボランティア意識も効果的に活用。まず活動の場を付与！ ・検証に基づき計画された事が何でできないかと検討すべき。 ・何とかした。任務付与。 ・今示されている意欲を失わせない。 ・ささえあい利用者の人がない。 ・除雪如何に関与するか。 ・資格、経験、荷載、集荷、誘導。 ・3年前の検討課題の検証。 ・市民によるサービス利用声かけする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家活用。

相談先がわからない(6)	<ul style="list-style-type: none"> 相談の夜間、休日の窓口がない。 地域毎にピックアップして困りごとなど聞く。 80才以上の夫婦の家庭に困りごとアンケート実施する。 若い方で疾病を抱え悩んでいる方。 75才以上の単身の方へ困りごとのアンケートを実施する。 ちょっとした困りごとを助けてもらいにくい。 介護者のケア。負担(経済、精神面) 	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとに「ほっとネット」が対応する。 暮らしの手帳で、西東京市の一層浸透を図る。 75歳以上の困りごとアンケート大賛成。 気軽に何でも相談できる出入りしやすい場所を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談を聞いてくれるのを待つのではなく周知にもっと力を入れる。 チラシポスター、デザイン、配布先などの工夫。 電話、メール、FAX、ネット、窓口いろんな手段を作る。(土日、夜間) 多言語の「暮らしの手帳西東京」つくる。 相談窓口職員の交流会。
移動手段(3)	<ul style="list-style-type: none"> サロンやイベントに行きたいが移動手段がない。 高齢者の買い物、病院へ行く足としてコミュニティバスの充実を図る。(はなバス住宅地走る) 	<ul style="list-style-type: none"> 歩いて行ける所にサロンをつくる。 はなバスの路線をもう少し増やす。 はなバスにシルバーバスを使えるようにする。(東急トランセのように) 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスのルートの検討。 歩道上にある標識の位置をかえる。 乗合タクシーの利用。 タクシー会社などと乗合による低料金移動。 施設バス等の空き時間利用。
子どもたちの成長をさまたげている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの声がうるさいと苦情。 子どもの遊び場。(騒音苦情) 外で遊んでいてすぐに警察に通報する人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、世代間交流を図る。 見て見ぬふりをしないで加わって。 外国語特技を活かす翻訳。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会実施。 研修手帳つくる。 冊子を作る、アプリを作る。
環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道路や建物が新しくなり、町の景観が変わって、歩いていて迷ったりする。 町が変わってしまい、わかりにくい。 商店街に活気がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板に地図を掲示。 電柱、ブロック塀などに町名、番地のプレートを貼る。 買い物ツアー企画。 	<ul style="list-style-type: none"> 標識整備。 踏切が危ない。整備。大きな信号を渡り切れない。 道路整備、自転車、歩行者など。

<p>自転車の乗り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自転車の乗り方。 ・歩道を自転車で走行。 ・自転車走行(高齢者、子ども、若者)歩道逆走。 ・自転車がこわい(自転車に乗っている高齢者)いこいの森公園内。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車交通ルール講習会開催の実施。(校庭など) ・自転車の乗り方教室。 ・おまわりさん、シルバー、気づいた人が注意する。注意している人を周りも応援する。うるさいまち→交通ルールを守る。 ・異世代で講習会実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車も免許制にする。
<p>つながりがない (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化、世代お互いの理解。 ・オートロックマンションの為、ご近所との交流などとりにくく、どんな方が住まれているのかわかりにくい。 ・ご近所のつながり。 ・イベント、交流活動の意義、実効性。 ・近所の方にいやがらせをする方が前に住んでおられます。アパートから出ていくことはないので常に見守っていきたい。心にかけてあげたいと思います。 ・集まる場所が少ない。 ・近所のつきあいが無い。 ・関わりを拒む当事者への対応。 ・交流できる機会が減っている。また、出て来てもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとネット、ささえあい、いこいの森でイベントしたらどうか。(広報) ・地域で防災について話し合う。 ・近所で気軽に声かけしてみる。 ・交流イベント。ほっとネット推進員がうごく。 ・ほっとネット推進員をみつける。 	

担い手がいない	<ul style="list-style-type: none"> 若い方の地域参加が少ない。地域のきずながない。 ボランティアの担い手の減少。 町会、自治会活動の低下。(一時は活性化) ふれまちに新しいメンバーが入って来ない。 ボランティアの活動の後継者がいなくて困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ささえあい協力員の強力を得る。 ほっとネット推進員の協力を得る。 除雪に中学生の力を借りられないか？ 一人の仕事が多すぎるのでは？2～3人、4～5人で担うようにする。 	
高齢化(5)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進み自治会も機能しにくくなっている。 高齢化が進みお一人住まいの方が地域に何人もいます。つながり、お声かけ、あいさつを心かけています。高齢化対策が大切。 集合住宅の高齢化。 図書館など利用者に対して地域福祉の理解を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館、福祉会館による高齢者講座を定期的に開催。 近所同士のつながり作りを築く。声かけ、見守り、相談事を常に心かけていく。 居場所づくり。 あいさつができる雰囲気作り。 プライドの高い高齢者が行きたくなるサロン？居場所？ 病院困っている高齢者をささえあいにつなぐルートにする。 高齢者同士で教え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所立ち上げ支援。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で生活能力が獲得できない。 困りごとの相談先不明。 同じような組織があり判らない。 外国人の情報提供。 		<ul style="list-style-type: none"> 市が民間を信用する。 持ち主交渉、貸し出す。

グループC

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
ハード面での整備	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の整備。高齢者や子どもが歩きやすいように。 都営住宅でエレベーターの無い所がある。 電柱の住所表示板の復活。 町並みの変化について行けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ハード面の整備、交通マナーを今以上に積極的に伝えて協力してもらう事と行政の方との活動協力が必要と思います。 ハード面の整備についてどこが一番強力か行政の意見を聞く。地域、地域毎の「みせる所」を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 市のインフラ整備に期待。 市道や都営の所は市にお願いしたい。
交通マナーモラルの問題(1)	<ul style="list-style-type: none"> 歩道での自転車は歩行者第一を守って欲しい。 自転車があぶない。 はと等にえさをあたえる。 苦情。ご近所から声がうるさい!! 	<ul style="list-style-type: none"> 中高年の交通マナー。 自己意識の改善。 自転車乗り方教室、マナー教室。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高年への交通マナー講座。
高齢化による問題点(3)	<ul style="list-style-type: none"> 都営住宅や集合住宅の高齢化。 一人暮らしの方が多くなった。 ゴミ出しの出来ない高齢者がいる。(独居で開けない) 認知症の方の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 「エレベーターのない住宅」行政同士の助け合い、NPO等へのサービス介入。 近所の人達で協力する。 自分のできる事を表明する。ex) ゴミ捨て、買い物。 困りごとをどこにつなげればいいのか分からない事がある。仲間で情報やコーディネートできる人を育てる。 問題点の共有。 声かけていく。若い方にも。 	<ul style="list-style-type: none"> 困っている人と手伝える人のシステム化。 企業、団体(サークル、学校)への働きかけのシステム。

		<ul style="list-style-type: none"> • 小さい単位の(自治会)での集まりを開く。 • 65歳以下の人が認知症を知る、参加する。 	
活動の継続が大事	<ul style="list-style-type: none"> • 続ける事が大事。 • お手伝いしている方や中心となり活動される方の高齢化が心配。 	<ul style="list-style-type: none"> • 世話人が必要。 • 色々な世代の人との交流の場の支援。 • 活動への参加。 • ボランティアの大切さ、自分にとって大切だと子どもの頃から自覚。 	<ul style="list-style-type: none"> • 参加しない人、集まりのない地区の人、包括がアプローチ。 • ボランティア(ささえあい、ふれあいのまちづくり)のまとめ、まとめ、システムの一歩化。
場所がない(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 地域に二つの大きな団地があるが、急速に高齢化している。ゆるい見守りシステムは出来たが、このままでは活性化はおぼつかない。対応いかん。 • 場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 商店、企業、学校等が場所を提供。 • 空き家の活用持ち主との交渉。 	<ul style="list-style-type: none"> • 総合教育施設の弾力的運用。「会議室」から「多目的室」へ。 • 空き教室利用は利活用実態に応じた「間仕切り」を行い利用する。 • 空き家等の情報の提供をしてほしい。 • 場所取り(サロン等)に苦勞している。使用していない場(早朝や夕方)の開放を検討してほしい。 • 提供への声かけ、つなぎ。 • 空き家の活用持ち主との交渉建物整備。
イベント、集まりの充実が必要	<ul style="list-style-type: none"> • 地域イベントの開催。 • 楽しいと人は集まる。 • 以前にはあったであろう祭りなどが減ってきている。 • 年齢を超えた地域での付き合い方。 • (自治会、イベント)集まっても知っている人しか話せない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「イベントの話」総合型地域スポーツクラブを利用する。 • 災害時のつながりは日常のつながりで生まれると意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害をテーマに小さい地域をつなげる。

<p>交流が必要(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域に出て来ない人を誘い出すのに苦労がある。 • 隣近所の顔も知らない。 • 若い人の力をもっと借りるとつながりが広がる。 • 多世代での交流が必要。 • 近所つき合いが少ない為、困りごとが分かりにくい。(発信手段がわからない) 	<ul style="list-style-type: none"> • 年代別に得意分野を持ち寄って世代交流を実施。 • 同じ地域のサロン同士が交流して参加してみる。 • 交流の必要。ひきこもりがちの人と個人的関わり方を通して気を許せる状態になっていけると第一階はいいかなと思います。 	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 市内で気になる人(例えば、じーっと立ちどまる、若い女性が無理やり男性から手を引っ張られる)など目に留まった場合まずどこに伝えればよいか。 • 社協に相談 	<ul style="list-style-type: none"> • 商店の人からも情報を発信していただく。 • 隣人の方が知っている情報や入手した情報を伝えてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症講座をより多く開催していただきたい。
<p>情報がいき届かない(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 思ったより介護保険制度が知られていないことがわかった。 • 一人暮らしの方への情報が届きにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 民生委員さんを補助する方を地域で募集する。 • 情報が行き届かない。地域の人の必要をある程度知ること、市報などの情報も目に触れない人もいるので伝えてあげること。 • 町内会があるところは町内会、自治会を通して情報を。 • まずは挨拶や声かけから始め、顔を知ってもらう。 • 友人を通して集まりに誘う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 総合窓口のような(相談受付)場所が設けられると、とりあえず繋げて不安をのぞけるかと思います。 • 高齢者への講座＝介護予防ではなく広くとらえる企画。 • たてわりでない、その人(年齢別)に必要な便利帳。 • 75才?65才?になったら情報本をもらえる。

<p>移動手段がない (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 移動手段がなくなり、通っていたサロンに行けなくなっている人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーションの進行。 • 移動サービスの情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市報の活用。 • 医療保険、介護保険の変更についていけるよう必要な講座を開催する。(コアメンバーをあげてもら)
------------------------	---	---	--

2. 北東部圏域

グループA

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
災害時の孤立が心配(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きたら、互いに支えあえるだろうか。 ・普段から孤立しがちな方は災害時にも孤立してしまう。 ・雪かきが出来ない。(高齢の為) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災パトローラー軒、一軒まわって、あいさつ。 ・防犯、防災を充実したいが!? ・地域主体による避難所開設訓練の実施。イベントではなくて。 ・(防災)要配慮者の安否確認、避難誘導訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害、防災について過去の教訓に基づいた専門的アドバイス。
地域のつながりが希薄化している(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・近所にだれが住んでいるかもわからない。 ・地域のコミュニケーションが必要。 ・深くつきあいをしたくないという態度。 ・近所つき合いが少ない。 ・人との関わりを拒否する人が多い。 ・近所つき合いが無い。 ・地域でのつながりが希薄化している。 ・近所つき合いがうすれている。 ・家にあがって遊ぶことが減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のつながりを広げていく。(身近な声かけ) ・福祉会館と児童センターの交流。 ・オープンなサロンを増やしたい。 ・希薄な関係でもいい。サロンをつくる。 ・銭湯をもう1回つくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の確保の支援。(ex:空き家とか空いているお店) ・空き家利用。コミュニティの場を使う。 ・各地域の公共カフェスペースみたいなものをつくる。(公民館とは別) ・自治会ではないグループづくり。 ・グループ作りをよびかける。

<p>自治会のあり方に課題がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会が無い。 • 自治会が少ない。 • 町会、自治会がなく、つながりがない。 • 地域の関わりが少ない。(自治会が無いなど) • 大きい自治会では班に分かれているが、班の人は10軒以下がよい。 • 昔からの町内会があるがその中でかたまってしまい周囲とのつながりができない。 • 自治会などのまとまりがない。 • 自治金、集金がめんどろ。(高齢者) • 自治会が消滅。(高齢になり集金集め等が大変) • 自治会に入っていない人、入らない人。自治会としてどう対応していったらよいか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域(小学校区?)ごとに、関わっている団体、個人でネットワークを作り、自治会のような機能を担う。 • 大きい自治会は多数の班に分かれている。班は自然に出来ている。班の中には高齢者向けのグループがある。その中に若い人を入れたいのだが、どうしたら？ • リーダーの養成講座をやる。 • 自治会作りをよびかける。 • 転居に入って来る人。自治会のパンフレットを市役所で転入時に配布して欲しい。今はしてくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 例えば自治会を作る、入会をすすめる。 • 声かけのお手伝い。 • 自治会をまず作らなくても自主防災組織が作れるように。 • 法人、株式会社(デイサービス等)が自治会のようなものをつくれるように支援してほしい。 • 自治会作りの立ち上げ方講座をする。 • 小さなコミュニティ作りの手助けを一緒に。 • 自治会はメリットが多い。小さい自治会設立に人選に(リーダー等)社協などが協力したらどうか？ • 自治会を作るマニュアルの作成。
<p>困りごとがわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 困りごとなどの問題が見えない。 • 活動を行っても話題は表面的で本当に困っていることはあまりわからない。 • 手をかして欲しい高齢者に助ける人が見えない。 • つながり(自治会)を作ろうと提案しても難色を示される。 		<ul style="list-style-type: none"> • 若い方々の声をネットなどで聞き、ボランティアにつなげる。 • 市長部局と教育部局の連携。 • 各市の課、社協の横の繋がりを充実。

<p>地域の活動が十分に知られていない(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域にどんな活動があるのかわからない。 • 助け合い活動をしているが、なかなか知られていない。 • 各活動が知られていない。(ふれまち支え合いなど) • いろいろなボランティア活動があるが、お互いに知らないことがあり、連絡が取り合えるといい。 • サロンの普及率が良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 無料でできるATM脇の広報。 • 地域のサロンやボランティアの情報交換会をやる。 • 街かど掲示板、自宅の塀などに広報物(チラシ)を掲示しても良い方を募集する。 • 体験農業を居場所作り、貧困支援に出来ないか。 • 何かの大会をやる。(インスタ映え) • 地域住民が自由に参加できるイベント。(運動会、ラジオ体操、焼きいも、バザー) 	<ul style="list-style-type: none"> • 掲示板を増やす。 • 転入居の時窓口で、自治会を紹介して欲しい。(パンフレット等も可として欲しい) • 柔軟な発想。 • 住民が参加できるイベントをやる。(市民祭り以外)
<p>ボランティアの不足(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの高齢化による不足。 • ボランティアの高齢化。 • ボランティアが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの悩み相談などのコーディネーターが居ると良い。 • ボランティアの負担を減らす。 • 退職者、特に男性を活用。(スキル高い) • 職域別のボランティアチーム。 • 異世代をネットでつなぐボランティアを。 • シルバー(世代)の活動に若い方も出来ないか。 • どういうボランティアがあるのか、発信してほしい。 • 外に出なくてもできる交流をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの不足。市報や公民館だよりなどを利用する。 • シルバーとボランティアを組み合わせられないか。 • 社協の「ボランティア市民活動センター」の拡充、存在の周知、位置付けの明確化。 • ボランティアのHPを見やすく。 • やりたい人の発掘と、それをつなげてくれる機会。
<p>参加者の固定化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域活動に参加する方が固定化し新しい人が入ってこない。 • 助け合い、何時も同じ人になってしまう。 • 新たに地域活動に参加する第一歩が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 親がボランティア中に子どもを見守る保育ボランティア。 • 単発のボランティアとして「ちょこっとボランティア」の実施をする。(ボランティアをしたいがきっかけをつかめない人向け) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は共働きでなかなか地域活動に参加しにくい。 		
<p>交通の便が悪く 買い物や通院が 不便</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い。 ・栄町の交通手段がない。 ・駅までの足がない。 ・近所にお店が少なく交通の便もよくない。 ・バスも通っていないので高齢になったら買い物へも行かれない。 ・ひばりが丘駅北側に大きい公共施設がほしい。 ・買い物に行くのに苦労するところがある。 ・近くにお店がなく買い物が大変。 ・買い物が気軽にできない。(店が近くにない) ・買い物など不自由している。(バスなどが通っていないなど) ・家の近くに病院が無い。 ・緑の整備がいまいち。 ・新しい道のところなど自転車が速くて危ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域への移動販売を住民がやる。(車の用意などは行政や企業?) ・交通難民の方に対し車やガソリンは行政や企業が用意し運転は住民ボランティアで、週1回?など定期的に運行する。 ・買い物が不便、高齢化により。社協たすけあい活動を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たすけあい活動の枠を広げる。 ・交通の便が悪い。行政への働きかけ、はなバスを通してもらう。地域の住民がまとまって署名活動など。 ・移動販売や巡回車内?を充実するための整備、調整。(車、ガソリン) ・バスを増やす。(路線を)

グループB

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
バリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化が遅れている。 古い建物が多く残っておりバリアフリーになっていない。 ガソリンスタンドなどセルフ化してしまったお店がとても不便。 セルフのガソリンスタンドしかなくガソリンを入れることができない。 		<ul style="list-style-type: none"> 障がい者への理解を深める。福祉教育の充実。 災害時の避難所、バリアフリーを含め西東京市のハード面での都市計画。 車椅子、ベビーカーでも可な施設、レストラン、トイレ、ガソリンスタンド、病院等のマップ作り。
隣近所のつながりがない(2)	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所とのつながりがない。 近所同士の交流が少なくなっている。 近所づきあいが無い。 挨拶をしない人が多い。 野良ネコなどの困りごと。 あいさつがなく近隣との交流が少ない。 近所との交流がない。あいさつがない。 近所づき合いが薄れている。(ささえ合い出来ない) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会がなくなっている、それに代わるものを作るのは、どうでしょうか。近所の方との交流のチャンスになるかと思えます。 “挨拶がない”ということの問題だと感じている人がめげずに挨拶を続けることしかない。自発的活動が大切！ 高齢者と近隣の小中学校とつながりを持ち、ゴミ出し、雪かきなどを行う。 自治会のない所にも回覧板のような物を配る。 核家族が多いので子ども達と老人とが会話できる場所を作ってみては？ 近隣地域でイベント的なものを開催。 地域で活動されている方々の交流会をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災無線の活用。雪かきなど共通課題への取り組みのうながし。

		<ul style="list-style-type: none"> • 地域のコミュニケーションを図る為に月1回とかゴミ拾いとか行う！ • 災害訓練を通して隣近所とのつながりづくり。 	
地域の居場所が少ない(4)	<ul style="list-style-type: none"> • 孤立の方をどうするか。 • 困っている人の声を拾えない。 • 市民の居場所がない。 • 居場所、サロンが近くにない。 • 高齢化によりボランティアが集まらず活動が乏しくなっている地域がある。 • サロンが少ない。 • 交流を持ちたいが場所が確保出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • サロン、カフェという名称に抵抗がある。名前を変えてはどうか。 • おにぎりカフェなど具体的なやり方が分かれば「できるかも」と思える人、増えるかも。寄付で実践している。(おにぎりカフェ) • (ブックカフェ)放課後カフェなども全中学校実施していけるとよい。飲み物も飲める。 • 子どもから高齢者まで集える場が作れるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 空き家を提供してもらいサロン居場所とする。 • 空き家を使ってサロン等を行う。 • 空き屋(家)を市で管理しサロンに使わせていただくと良い。オープンカフェ的な場所だと老人の方など集まりやすい。 • 空き店舗など安く借りられるようにならないか。 • ふれまちの活動拠点を増やしていく。 • 都営アパートの集会室、空き部屋をサロンとして使えるように。シルバーピアも。 • 老朽化した集会所の建て替え。 • 徒歩圏内で通える居場所、拠点の計画的な設置。
ハード面の不足	<ul style="list-style-type: none"> • 広く大人数で使える活動の場所がない。 • 空き家が利用できれば。 • 公共の活動できる場所がない。(狭い！) 	<ul style="list-style-type: none"> • 近所にだれでも集えるサロンがあると良い？ • 信金の多目的ルームなどの場を使わせてもらう。 • つかえそうな「場」にアンテナをはる。 • お店(パン屋など)と協力してお茶飲みできるような場ができれば…。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域ごとに高齢、障害、子育て全てを含んだ建物を建て、そこに集約する。 • ハード面下保谷福祉センターなど年に関係なく使えるように。 • 地域活動のマッピング、どこに地域資源がないのか、まず目で確認してみる。 • 広域の避難場所の確保。 • 災害時の拠点。役割の明確化。

<p>情報の不足(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー世代がボランティア(地域)に活動しない。仕方がわからないのではないか。 ・横のつながりがない。ボランティア地域活動など。 ・助けあい活動のボランティアを知らない人が多いのか、利用者が少なくもったいなく思える。 ・気軽に相談できるところが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を見つけた時に、どこに相談すればよいか、わかるとよい。そうすれば情報提供できる。 ・地域に活動をお知らせできる何かがあるとよい。掲示板、個配、学校を通してチラシ配布。 ・代表者同士で話し合う(サロンなど)情報交換できる機会をつくる。(社協などの会合のやり方改善できるかも) ・ふれまちなどで情報を伝える。自宅の掲示板をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアの方が増えて、お元気な方、退職された方にもっとボランティア活動の声かけを市報等にのせてもらう。今もあるが、より多く声かけしてもらう。TVでも。 ・居場所、サロン、カフェ等の一覧表の作成、福祉情報。わかりやすいホームページの開設。回覧板を広める。 ・市のホームページに地域資源や活動に特化したページを作ってみる。高齢から子どもまで。 ・シルバー世代の社会参加が少ない傾向は、男性であると思われるので、男性対象の企画などを開催する中で、発掘を試みるなどに力を入れてみてはどうか。 ・市の各施設に様々なサロンの紹介コーナーを作る。 ・個人情報保護の捉え方に相違がありすぎるため、働きかけが難しい現状を改善するためにも、行政からの発信(個人情報に関して)を今一度改めて行うことが必要である。 ・個人情報に関する講座の開催。地域活動での扱いの注意点。提供の相違を埋める。 ・掲示板の充実。(数を増やす) ・公民館、図書館などにチラシをおく。 ・暮らしの便利帳(世代別)を作ってみる。子育て、高齢など。
-----------------	--	--	--

<p>交通手段の不足 (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 交通手段がないため買い物など移動が。 • はなバスのルートを考えてほしい。 • 交通の不便さ。 • バスに車イスで乗ると乗務員に多々嫌な顔をされる。 • 北部は陸の孤島。はなバスを停めて欲しい。 • 保谷駅前前の道が狭い。 • 足がない。病院に行く時など。 • 買い物に行く交通手段がない。 • バス、商店など(足がない)不便。柴町あたり。 • エリアによってタクシーがつかまらない場所がある。 • はなバスのルートを市の施設や病院に止まるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 車を持っている方が登録制、ワンコインで運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 病院の送迎バス、駐車場所を増やせないか？ • 5年10年先の経済状況、都市の在り方を考える。駅周辺以外は遅い？ • はなバスを多く回してもらおう。公民館を回ってもらおう。病院とかも行ってもらおうといい。 • はなバスが公民館、駅、福祉会館など公共施設を網羅できたら。 • 福祉バスの運行、市の施設、大きな病院を巡る。 • 交通手段の解決方法として車を使用してのボランティアへという事の考え方は無いものとする。目的別(通院、買い物)に対応方法が変わってしかるべきこと。行政が担うのか、民間レベルで担うのかの線引きを明確にする。 • はなバスの路線拡大。
<p>買い物難民</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 住民が高齢化しており買い物が不便。 • 買い物がしづらい北町、東伏見方面。 • 買い物難民。 	<ul style="list-style-type: none"> • 買い物ツアーの実施。できれば自宅→店→自宅。 • スーパーとかが遠い所に移動販売車などが来ると良い。 	

グループC

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
近所付き合いが無い(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所づきあいが無い。 ・近所づきあいが無い。 ・近隣とのコミュニケーションのとり方。 ・引っこして来た人があいさつしても相手は知らん顔だ。 ・戸建て、マンションどちらも家にこもっている人が多い。 ・近所付き合いが広がっていかない。 ・地域から孤立している高齢、障害者がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なご近所への声掛け。 ・自分の存在のアピール。 ・ご近所のできる防災訓練などを通じて、会話のきっかけを。 ・自分が楽しむ。 ・おせっかいおばさん、おじさんのすすめ。 ・顔を見たら自分からあいさつを。 ・率先して態度で示そう。 ・外に出る理由(大義名分)をつける。(教えてください自宅開放など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ越しの届の際、行政職員から近所へのあいさつを促す。 ・地域のイベントPR参加の促し。 ・個人宅提供の推進。補助金を! ・地域のお知らせを回覧板形式で。(顔を合わせる)
交通の便が悪い(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって交通手段が不便。 ・移動手段がなく病院、買い物等非常に困難。 ・移動の具体的な場所。北町、団地、富士町X。 ・交通の便がわるい。 ・バスのルートがない地区がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通販(ネット)のやり方を教えてあげる。 ・通販代行。 ・助け合い活動に申し込んでみては?一緒に行きましょう。時間の制限ある。 ・巡回バス(小型)ボランティアの募集PR。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店への巡回バス店への呼びかけ。 ・はなバスの見直し。 ・はなバスの停留所の場所を増やす。 ・交通空白地区への巡回(小型)バス。 ・移動手段を自家用車の空いている時間を使ってグループをつくる。 ・はなバスを1時間せめて2本に。 ・はなバスのルートの見直し。 ・巡回バス(小型)システム構築。テイサービスの空き時間等。

買い物不便	<ul style="list-style-type: none"> • 商店がなく買い物に行けない高齢者もいる。 • 買い物不便。 • 買い物不便。 	<ul style="list-style-type: none"> • 施設と協力して移動ボランティアを運営する。 • 移動コンビニの可能性。 	
子育て施策の不足(3)	<ul style="list-style-type: none"> • 子育て支援の不足。2番目の子を産む時に1番目の子をあずける所がない。 • 子育て支援。親が具合が悪くなった時に子どもを預ける場所、相談。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子育てイベントで地域情報を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> • ファミリーサポートのPR。 • 既存の建物サービスに子ども支援員を組み込む。 • 子育てをする場合1子目、2子目を預かってくれる制度をつくる。 • 子ども預かり体制の整備、ボランティア登録。
行政のPR不足(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 行政や市民サイドで色々な活動をしているのに市民が知らないのが残念。 • 市も社協も色々しているのに知られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 口コミで伝えていく。 • 行政の窓口(たらいまわしにしないで) 	<ul style="list-style-type: none"> • チラシを作成し公共施設等におく。 • イベントのPRツールの工夫。防災無線とか。 • ポスターでアピールする。
自治会は必要?(2)	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの人手不足や高齢化で担う人が減っている。 • 自治会等がなく、地域とのつながりがない。 • サロン等を催しても同じ人しか来ない。 • 自治会がない。 • 自治会がなく近所づきあいがうすれている。 • 自治会もなくなり情報が入り難くなっている。 • 自治会があっても若い人が加入してくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会にかわる地域活動。 • 自宅を開放。 • 自治会でなくても地域の運動会などのイベントをできるように。 • 住民に懇談会や自治会の役割を知らせる。(ふれあい) 	

居場所の提供 (6)	<ul style="list-style-type: none"> 市民が集まる居場所を提供してほしい。 多世代交流の場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模のサロンをたくさん作る。 現在自宅を提供している。 行事をコラボして他者の事を知る機会を設ける。防災訓練(学校で避難所設置)と認サポ。 空き家をシェアハウスのようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> サロンやミュディの拡大。 居場所(自宅、施設)の募集PR支援。 総合型スポーツクラブ(にしはら、ココスポ東伏見)充実、拡大。 異世代の交流するイベントや場所作りをしてほしい。 サロンのもっと補助金を。 空き家が多いと言う事で使用出来たら。
個人情報の弊害	<ul style="list-style-type: none"> 本当に困っている事柄を話してもらえない。 お困りごと、本音を聞きだせない。 個人情報もあり、どこまで立ち入って良いのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政を中心に地域の中の様々なネットワークにつないでいける活動をしやすくできたらよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政や社会福祉協議会からの具体的な情報をだせる範囲でいただき共有していくことで連携したらどうだろう。
市は計画性を!	<ul style="list-style-type: none"> 新しい道路の悪影響、わき道。 生け垣の、伸び放題の枝の始末。 市の事業(宅地造成など)に計画性がない。 新しくできた道が不便。 古い道に信号がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことを自治会長などに言える関係性に。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業を立ち上げる時にクラウドファンディングの利用。 防災訓練を計画的にしてほしい。(地域ごと)

3. 中部圏域

グループA

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
行きやすい交流の場づくり (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の空きスペースを子ども食堂に居場所づくり。 ・空き店舗を居場所、災害時避難場所。 ・地域に集いやすい場所。例えば空き店舗など。 ・集まる場所が無い。 ・集まりやすい集合場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなサークル。昼間市内にいないような人が交流をもてるもの。 ・共働きの方は学校を拠点に、高齢の方はサロンを拠点に。 ・学校を起点とするイベント。 ・地域とのつながりを持つことのメリット。 ・子どもと大人と一緒に料理教室。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館がもっとほしい。 ・子ども向け施設、高齢者施設そういうのを取り払うべき。 ・北原の児童館を高齢の方にも開放してほしい。 ・規制緩和。(たてわり) ・「イベント交流」企画等、場の提供してほしい。 ・子どものたまり場、逃げ場所。 ・公民館がほしい。 ・防災に関心ある人は多い。関係機関の連携をとってほしい。
参加したくなる内容づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・参加したくなるコンテンツ作り。 ・サロンの話に興味があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザ教室人気。もちつきとか？ ・ポケモンGOでついでに地域パトロール。 ・ポケモンGOで仲良しに。 ・産業、農業等との協力で交流。 ・こういう懇談会に若い人が来て欲しい！ ・地域が交流するイベント、おまつり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康マージャンどこでできるの？場所、仲間。 ・土日祭日開催盆踊り、魅力あるもの。 ・社会教育と(公民館)地域福祉(市、社協)の連携。 ・市が主催のイベント。(安心して参加できる) ・おまつり、目的を複合的。

<p>支援が必要な人の対応(7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの方は支え合い訪問を申し込めばよいのでは。 とじこもりがちな高齢者をどう引き出すか。声を出して！ 一人暮らしの人をお誘いしても行動しない。 団地などの集合住宅の住民の高齢化が進んでいるように思う。 高齢者の自助。(力を引き出す) 制度の狭間。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物支援。ネットで買ったものを配るとか、ネットのやり方教えてあげるとか。 市内公園を販売車がまわる。(JAなどの連携のもと) めぐみちゃんカーを使う。公園でマルシェ。 支部を強化して！(社協) 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合窓口」困りごとを一旦引き受けるところ「まずここへ」というところ。 包括、社協、市、民生委員の連携強化。
<p>地域の情報を知る機会が少ない(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 戸建てが多く情報が少ない。 (住まいが)住宅街なので自治会など住民同士の結び付きが無いと周りで何が起きているか、どんな人が住んでいるかが分からない。 地域の高齢者(困っている人)が見えない。 自治会としての取り組みについての話し合いがなかった。 町内会、自治会がない。 近隣と対話がない。電話番号、年齢わからない。 近所どうしのおつき合いがない。 ご近所さんの顔を知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発信することも大切だが、その機会がない。(チラシづくりなど) ふれまち等ささえあいの会合、次につながる。問題提起のしかた。 	<ul style="list-style-type: none"> ほっとネット、ふれあいささえあい、リンクそれぞれ何をしているのか一覧にしてほしい。 掲示板の充実。 色んな手段、紙も活用。

福祉意識(2)	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつできない子ども。 • きちんと知ること。(障がい、認知症) 	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉意識、おもいやりお互いさまの気持ちもつ。 • あいさつの習慣ももっとも！！ • お手伝いを楽しみと思う意識。 • シルバー人材センターの方(ベスト着ているから)子どもにあいさつしてあげて！ 	<ul style="list-style-type: none"> • 元気なシルバーさんの発掘、指導。 • シルバー人材業務として人として活用！ • シルバーさん業務拡大、パトロールの時間ひろいを出来る範囲とする。 • お互いさま、話し合いのきっかけ。
担い手	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業(大学)の協力(雪かき)、ボランティア、CSR。 • シルバーセンターの今までとちがう活用。 • シルバー人材から地域リーダーを育てる！ 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアポイントなど動機づけ。

グループB

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
自治会が減っている。(3)	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会がなくなりごみ出しのしかなかったなど困る。 • 自治会の出席者が少ない。 • 町内会役員選出について選挙により決定してきたが、なり手がなないので困っています。 • 役員のなり手がなく自治会がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 防災など誰にとっても大事な企画で人を集める。 • HUG(避難所、運営ゲーム)色々な団体と一緒に。 • 行政の方から自治会作りをすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会が活動しやすい環境作り。取り組みの紹介や交流できる会を開催する。 • 転入してきた人には、自治会に入会するように、こちらから話しかけをして行く。 • 自治会の役員はメンバーの中に若い人、60才代を加えて次の時に三役になってもらう。

	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会がなく地域の情報が入らない。 • 活発に活動している自治会のノウハウ。 • 会合の出席率が悪い。 		<ul style="list-style-type: none"> • 転入届を市に出すときに、その地域の自治会をパンフレットで紹介してもらう。 • 自治会の必要性を発信してほしい。 • 自治会の会報を発行する。
地域の人との関わりが希薄(6)	<ul style="list-style-type: none"> • かかわりを拒否されるお一人暮らしの方が心配。 • 情報源は、インターネット。人と人とのつながりが希薄。 • 近所づきあいが無い。 • おとなりに住んでいる方がどんな方かわからず不安。 • 周囲の方の無関心。 • 近隣の方とのコミュニケーションが無い。 • 近所づきあいが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつから始める。 • 顔を合わせれば、積極的にあいさつをする。 • 新しく来た人を近所に紹介する。 • ご近所の方を知る。(どのような方が住んでおられるのかを知る) • 近所の人を知り合う機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 会に加入している人には年間のスケジュールで話し合える行事を多くやって行く。 • 町内会のお祭りは、もっといろんな会と連携して。 • イベントを行う時は地域の他の団体に声かけしてみる。 • 地域のための会議に若い方が参加できる工夫を！ • 市主催、共催のイベントを企画開催する。(興味を引く内容のもの) • イベントに中学生ボランティアを活用したい。
孤立している人がいる	<ul style="list-style-type: none"> • 障害児を育てるお母さんの孤立化。 • 祖父母が近くに住んでいない子育て世帯。 • 閉じこもっている人をどのように連れ出したらいいか。 	<ul style="list-style-type: none"> • チラシを作って配布し、地域の高齢者を集めた。 • 世話を焼くと話しやすくなる。 • 世代間交流(学校の空き教室の利用など)→お互いの気持ちを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 居場所やサロンを増やす。 • 居場所やサロンの場所や内容を知らせる広報をする。 • 歩いて行かれる所に気軽に集まれる場所が欲しい。 • 小学校をもっと開放してほしい。 • 相談員を設立して実施する。

<p>関わり方がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのように声かけをしていいかわからない。 • 自主的に高齢者の見守り活動。 • 子どもたちへの声かけができてにくい環境。 • 得た情報は包括に集約？ • 民生委員と協力員の情報共有は必要。 • 民生委員が誰か知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもも大人もあいさつをする。 • 色々な場所に顔を出すと頼ってもらえる。 • 「この人は安心」ということをわかってもらう。 • 集まりがあったら顔を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校へ声かけ運動を積極的に働きかけてもらう。 • ボランティア団体等の実例発行等を発行する。 • 地域内にサロン等があるといい。交流が持てる。 • 市、社協で高齢者、障がい者、子ども関連する(勉強する)講座を開催する。(認知症の勉強会)
<p>SOSの発信ができない(8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 困っていても発信できない方をどうしていくか。 • 本当に必要な人に情報が届いていない。 • 今のお母さんはSOSを出すのが下手、ご近所さんもおせっかい焼かない。 • 「私たちは大丈夫」と思いこんでいる人がいる。 • 支援を拒む高齢者がいる。 • 居場所があっても知らないと言われない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域に参加することをすすめる。 • まずは声かけ。 • ちょっとしたことでもまずは声をかけてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 行政側の相談の実施について、パンフレット等で知らせる。 • 良い事業は沢山あるが、似ていて分かりにくい。

グループC

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
自治会、町内会の維持が難しい(2)	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、町内会がなくまとまりがない。 住宅自治会の役員になる人がいなくなった。 町内会の役員のなり手がいない。(特に会長) 町内会が機能していない。 働いている人には自治会などへの参加は難しいのでつながりがつくれない。 地域コミュニティが少ない! 	<ul style="list-style-type: none"> 強制力を持たないように心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当の専門を1つ持っていてほしい自治会。 街灯の設置の助成が増えるといい。
地域のつながりが希薄(1)	<ul style="list-style-type: none"> 近所付き合いが薄れている様になる。 若い人の考え方と違うこともあるので難しい。 新しい方入ってこられてもなかなかコミュニケーションがとれずつながりが持てない事。 関係づくりをどうしようか? 世代間の交流が少ない。 「地域」を必要と感じていない人が多いのではないか? 世代間の交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 見かけたらあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き教室の使用について教育委員会に働きかける。(学校) 空き家の確保をしてほしい。(交渉) 空き家を使用出来た場合、市としてはどこ迄協力していただけるのか? 活動の場所の提供。(情報だったり、使いやすくする行政の手立てだったり)

<p>居場所づくりの 進め方(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 人が集うことができる場所をつくるには「行きやすい」ところではないとムリ！ • 居場所が近くにあるといい。 • 小学校の空き部屋をサロンに出来ないか。(居場所) • 居場所にいる人との関係性が大事。 • 居場所づくりで大切なのはそれを世話する人である!! • 居場所が車イスに対応できていない。 • 保谷町6丁目地区地域のいこいの場所として地区公民館等が遠いため外に出る機会が少ない!!移動手段がない。交通手段がない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 根気よく誘う。 • 近くのサロン。 • 市内の空き家を提供してほしい。 • サロンづくり。 • 小さくてもいいので身近な場所をたくさん。 • 空き家情報がほしい。 	
<p>地域の困りごと、人が見えてこない(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 困りごとのある人の掘り起こしは難しい。 • 民生委員として活動しているが地域の状況等の情報が少ない。 • 困っている人が見えない。 • 問題がないとご近所と話す機会がない。 • 食事を自分で作れない人が多くなった。 • 心ない言葉を聞く機会が多くなった。 • 必要な人が必要な場所、人になかなかたどりつかない。(その人は話をしっかりきいてくれる人を求めている) 	<ul style="list-style-type: none"> • 興味あること防災、健康をテーマに誘う。 • 民生委員と自治会とのつながりづくり。 • 元気うちにつながりをつくる。 • 包括が情報を持っているので声をかけてもらう。 • 出した情報に対するフィードバックがほしい。 • 包括支援センターからの情報提供。(民生へ) 	<ul style="list-style-type: none"> • 情報提供のルールを作る。 • 民生委員とケアマネ、包括との連携づくり。 • 地域の役割を担うため、ある程度の情報が必要。(提供してほしい) • 包括支援センターからの情報をどの辺り迄提供していただけるのか？個人の方?!

	<ul style="list-style-type: none"> • 潜在的ニーズ(困りごと)をどのように洗い出すか。 • 地域の一人暮らしや困っている情報を教えてほしい。(個人情報保護のために教えてもらえない) • 老人が多くなってきているが情報が少なく又となりの事は話したくないと言う人が増えている。 • ちょっとした困りごとにすぐ対応してほしいと思っている。 • 独居の方、高齢になり孤立しないように外に行ったり、サロンに行くことをお声をかけるが、ご自分の生活を支えることが難しく外出しにくくなっている。 • 地域(近所)に交流をしようとしても(かたくなに)拒む人がいる。(見守りは必要) • 障害をお持ちの方と接する機会。(気持ちをきく機会がない) 		
<p>地域の人材づくり(8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアの高齢化。若い世代とのつながりが必要か。 • 地域の人的資源/人材をどのようにピックアップするか。 • いつも同じ顔ぶれで広がりが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> • P T Aに声かけする。 • 子どもを含め家族を入れたサロン作り。老人の集まりのイメージを無くする。 • 若い人の登用。 • 後継者を見つける会を続ける。 • 魅力ある福祉活動づくり。 • サロンの開催時小学校育成会の父母を仲間に入れて。 	<ul style="list-style-type: none"> • ポスティングの人材確保。 • 集まった時に何をしているか特長を紹介？

人のあつめかた (3)	<ul style="list-style-type: none"> 目的がないと集まってこない。 毎月1回住宅内の清掃を全員でしている。 何か行事を催しても人の集まりが悪く行事等が盛り上がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> サロン開催時内容を具体的に表示してみる。 チラシ作成ポスティング声かけを行う。 あえてテーマを決めなくて、実施する。(お茶のみ) 下校中に声をかけてサロンに参加してもらおう。(親も来るようになる) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動団体のあらいだし。 サロンの開催情報等を包括支援センター、ケアマネなど通し利用者に情報を提供してみる。 費用?会費?どうしているか。
全体に共通			<ul style="list-style-type: none"> 場所、お金、人の確保に向けた支援。 あらゆる情報の集約と提供。
災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時の対応がよくわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 動ける災害時対応策づくり。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> リビングウィルをどうするか? 92歳の老人。 		

4. 南部圏域

グループA

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
買い物難民(6)	<ul style="list-style-type: none"> • コンビニ、スーパーが閉店して買い物が不便になった。 • コンビニの廃止。 • 買い物難民。スーパー、コンビニがつぶれた。坂が多い。はなバス不便。 • 買い物が不便になった。 • 買い物難民。 • お店(特に生鮮食品)が無くなってお年寄りが困っている地域がある。(コンビニも) • はなバスが使いつらい。ルート問題。 • 坂のため移動不自由。 • 買い物が不自由。 	<ul style="list-style-type: none"> • デイサービスの車で買い物ツアー。 • 「買い物サポーター」名称(仮)地域で登録した人が有償ボランティアで対応する。 • 宅配サービスの利用。 • 宅配を利用する。(生協、コープなど) • ネットスーパーを利用する。(イオンなど)東久留米。 • 個人商店の活用。御用聞き。 • 移動商店。週1、2回。 	<ul style="list-style-type: none"> • 買い物バスをつくる会の立ち上げ。 • 市、企業発信を通して店舗を募集する。 • 買い物バス等を1週間に1～2回走らせて欲しい。(業者、病院タイアップして) • 買い物サポーターの育成、登録、有償ボランティアで支援。 • はなバスのルートを増やす。 • シャトルバスの充実。路線の増加。 • はなバス第4ルートが複雑だと感じます。
情報の共有化不足(3)	<ul style="list-style-type: none"> • 助けあい活動がなかなかひろがらない。 • 茶話会や食事会に出席される人の顔ぶれがいつも大体決まっている。新規者の参加を希望する。 • 自治会で回覧板がまわらなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民看板の活用。 • 社協も掲示板があるので、使って情報発信できます。 • 市報の活用。市内掲示板の活用。 • 市報等の情報の細かいところまで目を通すことが大事だと思う。 • NPO法人等の団体に加入する。(友達が増える、情報も手に入る) 	<ul style="list-style-type: none"> • 市報の読みやすさ。 • 困りごと相談、ほっとネットのPR(認知度高める)を徹底する。 • 情報誌づくり、市民が読みたいものに工夫する。 • 外国籍の子ども(小、中学校)への学校からの連絡事項がなかなか理解出来ないという声あり。対応をお願いしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> • 包括センターや社会福祉協議会の存在や役目がまだまだ一般人に知られていないのでは。 • 地域包括支援センターの知名度が低い。 • 独居、高齢夫婦に包括や社協の情報が届かない。 • 災害時の表示板がない。 • 情報が届かない。 • 引っ越して来たか情報が入らない。 • 新しく入居(西東京に)された方が情報が入らないとのこと。 • 不審者情報のその後が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会の広報。 	<ul style="list-style-type: none"> • 社協の地域福祉3つの仕組みをわかりやすく！ • 町内会、自治会の支援強化。
近所づきあい	<ul style="list-style-type: none"> • お母さん達の交流が難しい。 • 近所づきあいが難しい。新しい住民がふえたり。 • 近所づきあいが少ない。 • 人づきあいがわずらわしい一定の距離を。 • 民生委員→なかなかふみこんでいけない→プライバシー保護との兼ね合い。 • ふりこめ詐欺が多い。(近所での情報交換でふせげるかも) • 空き巣などまとまった場所でおこる。(近所での情報交換でふせげるかも) 	<ul style="list-style-type: none"> • 挨拶から始まる近所づきあい。まず「おはようございます」を自分から！ • 町内ごとのイベント開催。 • まちづくり「ウォーキング」を地域毎にチェック話し合う。 • 自治会の班別役割。 • 声かけされると嫌がる人もいます。でもその方たちも情報はほしいでしょう。さてどうするか。たとえば災害(地震になったら…火事になったら…)危機回避をテーマに話し合いに出て来てもらう。 • 自治会、町内会の設立、立ち上げ。 • 中高生が学校まわりを雪かきする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアポイント制度を見直す。 • 市内中学、高校に雪かきスコップが集まる仕組み作り。 • 中学生のボランティア活動強化。(教育委員会) • 小、中学生へのボランティア教育プログラムを全市的に。 • 中学生の力を地域活動に生かす仕組み作り。

	<ul style="list-style-type: none"> • ささえあい訪問を続けて2年半でしたが、利用者の都合で中止されました。ご近所の方にお願いと断られました。今後だんだん年を重ねられるのに必要だと思います。 • 雪かきのマナー。 • 外国人とのつきあい方。 • 近所つきあいが無い。 • 個人情報の壁が厚いのは一面良いことだが、困っている人に対してはさまたげになることも多い。 • 高齢者の一人住まい、病気になる大変。 	<ul style="list-style-type: none"> • 健康づくり。(しゃきしゃき体操、フレイル予防、マシントレーニング、健康体操) 	
環境整備(2)	<ul style="list-style-type: none"> • ゴミの捨て方。 • 不法投棄。 • 空き家が目立つ。 • サイクリングロードに柵が多すぎる。 • 子どもの外遊び場所。 • 子どもの遊び場に困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市から配布される冊子で確認する。(イラストや写真がある) 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童館を利用するプログラムを充実させる。 • 空き家で(移動)図書館。 • 図書館の本等を2週間に1回自宅近くの決まった場所への配本の希望。(例、地区会館等)
災害(3)	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の体制が取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時、日頃のネットワークづくり大事。地域、育成会、老人会など多様な人々の集まり。話し合いから地道に。 • 地域防災訓練の実施。 • 災害ブザーが鳴っても、何のブザーか、どこで何があったか不明で不安です。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市、消防署の協力を得て防災訓練の実施。 • 防災行政、無線個別ラジオの設置。(特に高齢者、障害者等宅) • FM西東京と連携。社協、市の緊急情報放送の仕方を考える。 • 防災訓練のお知らせの工夫。

ケアラースカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアラースカフェに人が少ない。 ・ケアラースカフェ介護人の参加が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地道にチラシをまいたり、口コミで伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護(当事者)の会の立ち上げ。共感、共有から始めないと。
家族支援(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・親が特養へ入った罪悪感を、感じている。 ・親を老人ホームに入れる罪悪感を持っている。 ・認知症家族の支援。 ・マンモス団地に住んでいるので1人暮らしの人の悩みとか親子げんかのはげしい大声が聞こえる。民生委員に連絡してあります。 ・月に2回団地内での「ふらっと」お茶飲み会があるけど、内容が工夫がなくて参加人数が少ない。麻雀は盛会だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息子の会、娘の会があることを広報する。 ・家族が罪悪感を持たずすむように心のケアをする制度(勉強会)を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会の充実。 ・介護者支援、介護者理解講座の開催。 ・家族支援に対する援助(障がい含めて)を増やす。 ・ファミリーサポートセンターで病児預かりを可に。 ・社会福祉協議会「いきいきサロン」活動の助け合い活動の利用を図る。
制度の狭間(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・55才～65才狭間の支援。 ・見守り訪問相手の顔が見えず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の「勉強会」(学習会)を自助、互助、共助、公助。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年男性、女性への社会問題を洗い出し討議会開催。(問題提起する)
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・まず「ボランティア」を取り分け職員から。 ・「コンセンサス」づくりこの方策を。 ・街づくりの「100人委員会」を福祉、環境、道路、公共施設、財政、コミュニティ。 ・市政モニター「アンケート項目」をまちづくりの困りごと。

全ての解決に共通		<ul style="list-style-type: none"> ・“声かけ”。 ・ほっとネット(P Rの充実)の活用。 ・活動経費を考える。 	
----------	--	--	--

グループB

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
生活難民(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって坂道が多い。(買い物に行けない) ・買い物難民。買い物に行けない。 ・商店スーパーどんどん消えてしまう。 ・はなバスルート増設の必要性を訴えろ。 ・買い物難民が今後増加する。対策は。 ・商店が減り買い物が大変になっている。 ・坂が多く移動が困難。 ・買い物が困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“運転” ボランティアグループを作る。 ・日中デイサービスの車を使う。 ・はなバス老人バスが使えるように、できないか。 ・はなバスを文化通りも走ってほしい。 ・今回の雪で玄関前の雪かきは出来ているが、道路をする人がいないので滑る人がいて困っている。 ・スーパー、ミニストアー配達頼む。生活(買い物)難民、無料、有料。 ・(買い物)宅配利用。(もっと便利に) ・生活(買い物)難民情報を伝える。(生協など) ・「生活難民」買い物の共同購入を進める。(出かけられない人、生活協同組合など)家の外へ歩いて出かけることの大切さ。(健康のため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(細い路地にも入れるよう) はなバスルート再検討を。 ・はなバスのコースを増やすまたは見直し。 ・市、はなバスのルート拡大。文化通りを走らせて。 ・民間中心の住宅開発ではなく、市が強力に推進する住宅街づくり。(商店づくり)例えば1 km 以内にお店を。 ・“移動”のため“車”の手配。新しい“仕組み”。 ・買い物等が大変な老人に対して移動用に専門の車が出ると良いと思う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・青空サロン。(子どもに応援してもらおう、地産地消、近所で出掛ける) 	
<p>情報が届かない(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板が少ない。 ・情報の共有化問題。 ・助け合い活動、広報について。 ・包括の存在？ ・自治会活動、回覧板がまわらない。 ・自治会の回覧がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市報にスポーツ関係の記事が少なくなっているため、入門の記事を載せてほしい。 ・民生委員さんと協力して地域を知る。 ・情報を届ける。市の広報を必ず配布、活用してもらおう。目の見えない方への対応も考える。 ・市報のデザインを目をひくように工夫。 ・掲示板倍増+70ヶ所。(PR、PR) ・新しいお家が出来たらなるべくお声をかけるようにしている。 ・「情報」若い方は紙ではなくライン、メール掲示板も板ではなくネット上。 ・“地区会館だより”や広報紙活用。 ・自治会や町会の活動を広報を通し発信し、地域の充実を図る。 ・掲示板を増やす。市民に協力してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会に向けて情報共有。市社協へ更なる努力。 ・市、掲示板を増やす。 ・このような会合に新参加者が出席するよう働きかけ。広報。いつも同じ顔X。 ・行政に積極的な人は多くはないと思われれます。市民が身近に感じられる方法？ ・「ささえあい」の記事が写真入りで掲載され、具体性があり良かったです。わかり易い広報を。 ・情報伝達方法の強力体制整備。(紙、掲示板、Web)市、社協。 ・向こう3軒両隣を知る、知らせる。半径300m、500m。 ・西東京市くらしの便利帳(すばらしい)を、もっと知ってほしい。 ・関心のない人に関心を向けさせる。広報、掲示板各所。 ・市報に自治会の報告を出す。 ・市報、スポーツ関連の記事を増やしてほしい。
<p>災害時における知識の共有(10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難場所のポスター。 ・防犯無線が聞こえない、聞こえづらい。 ・災害時対応ルールが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署へ要請。防災、自分達で確かめる、歩く、調べる。 ・防災訓練の充実。声をかけあい毎回でなくとも、1人でも多くの人に参加できるようにするには？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線は聞き取りやすく。人探しにも使用してほしい。 ・「命のハンカチ」を作成、全戸配布。(向こう3軒両隣、助け合いツール)

	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ等、隣接市の避難所も入れて欲しい。 ・消火器の場所知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者、高齢者、1人暮らし情報の事前集約。 ・災害時市内へ新しく引っ越して来た方へ防災情報を提供する。(マップなど) ・防災学習の機会をつくる。 ・「命のハンカチ」を展開する。(向こう3軒両隣を意識)(個人情報も不用) ・災害時対応ルールをつくる。(避難所決める) ・スタンドパイプを活用する。(自分の家の見回りで近所づきあいが出来る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宅急便も隣に預けなくなり久しいです。ご近所のつながりを構築の方法。
ご近所づきあい、自治会(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・合併により小学校が3つに分かれてしまい、町がうまくいってないように思う。 ・通学区域による分け方は果たして良いのか。再編成が要る。 ・ご近所の方があいさつしない。 ・ご近所づきあいが無い。 ・地域での交流が自分の周りにない。 ・転入してきた方を受け入れる地域でない。 ・外国人のゴミ出し。 ・向こう3軒両隣が出来れば。 ・自治会が無い。 ・新町地区の住民は人種がちがう。まち活には不活発。 ・自治会の班長の引き受け者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所を歩くのが大変な方を目にすると、支援センターをご紹介しています。 ・「変質者、不審者」とにかくあいさつをする。こわがらない。 ・ご近所の方へのあいさつ。 ・市の「健康体操」は、倍率が高いです。講座を増やして横のつながりを広げるようになると良い。 ・ない？役員やりたくない。自治会煩わしいのか？いらぬのか？人と人のわずらわしさ？ ・「カフェ」や「サロン」の利用者の声を広報を通し市民に伝える。 ・外国人の方に料理、言葉の教室を主催して頂く。 ・声かけ、難しい？近所づきあい、おせっかいお婆さんになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算配分(コア)健康都市(地域)フレイル、住民の集まりを増やす。 ・自治会組織の再構築による住民力の活用。市、社協。 ・個人情報の壁を超えて市民と専門機関をつなぐ取り組み、仕組み。 ・自治会の活発化。月1回の会合の実施。半径500m以内。 ・市、市内全域にプレーンをプロットする。(自治会展開は厳しいので現在のボランティア活動等の居住点で情報把握) ・課題解決型の組織。 ・自治会設立へのサポート。 ・新しい自治組織の立ち上げを支援してほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会がない。 • 町会、自治会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会がない。ライフスタイルが違うので無理につくらない。必要と思う人からはじめる。 • 「近所づきあい」まずは小さな地域の会から集まれる人からはじめる。月1回くらいか。 • 自治会参加への声かけ、お誘い。 • 「もちつき隊」を作って、地域をつなぐ。 	
地域の子も達とのかわり方(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもは何をしている。 • 小学生の遊び場が少ない。 • 子どもへの声かけ難しい。 • 若い世代が「ママ友」を作らない。 • 子どもと一緒に参加できる懇談会等の準備。(若い方の参加意見) 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの声が聞こえる所は犯罪が少ないそうです。 • 子どものいない世帯は、お菓子を用意しハロウィンに参加。 • 子ども食堂。地域の方から物品提供。 • まつりを増やす。近くで、公園で。 • 「ママ友」生活様式が多様となってきたのでNeedsに合わせて会を作る。ひきこもりママの会、1人親ママの会 etc. • 学校行事への積極的参加。 • だれでも食堂でつながる。(食料持ち込み可) • 子どもの遊び場として提供して頂ける家、庭を募集する。 • 育成会。子ども会。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校行事の地域への開示。学校と地域との関係強化。市。 • 学区を地域(学童のいない)に活動を広げる。 • 助成金、運営室。(簡単に！！)
「ひとりぐらし」の方への支援(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 独居で支援の必要な人が増加→リンクみたいなことで間に合うか。 • URの公団で過去に3人孤独死。民生委員の対応は？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 「一人暮らしの支援」情報の共有化を図る。声かけを行う。おせっかいの進め。 • 地域で情報を集め、民生委員、一人暮らし4人に1人、包括センター相談。 • 時々の訪問(何かの配布)おしゃべり。 	<ul style="list-style-type: none"> • 社協、高齢お一人の方宅へ時々訪問。 • 誰でも参加できる育成会に参加しよう。

	<ul style="list-style-type: none"> • いかにかきこもりの方を呼びだすか。 • 1人ぐらし、病気になった時助けてもらえない。 • いざと言う時1人ぐらしの方のいる事がわかりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「ふれあい」活動をしています。1年に2回のフリーマーケット「たべる会」を年3～4回実施しています。 	
「認知症」への理解(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症家族への理解、支援。 • 老人のプライド(がんこ)話を受け入れない。 • 認知症の方がいなくなった時の対応。 	<ul style="list-style-type: none"> • 困っている人、困っている事「サロン」認知症の方等呼びかけも。 • 「認知症対応」伝言メーリングリスト。(困った事があった時登録しているアドレスの人に一斉メールを流す) • 「認知症への理解」プライバシーへの対応、認知症への対応は本人、その家族との連携が必要。 • 防災無線を使って。 	
地域活動へのサポート(5)	<ul style="list-style-type: none"> • 従来の組織が伸びない。 • 心のすき間をうめたくて参加したが1回で参加を見合わせた時どうすれば良かったか。 • 新町5丁目のケアラズカフェの利用者の増加の知恵。 • 点、線の活動中心で、面(地域)の活動動きなし。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアセンターに相談する。地域活動ボランティア経験者に聞く。 • 「にこにこサロン」の活動を広げて行きたい。 • ボランティア掲示板、主催したい人、参加したい人をつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティア地域活動者を支える支援を。 • 活動者、ボランティアの悩みを支える取り組み。 • 新しい人材の発掘、育成、若い方。 • 市、社協へあらゆる視点から社会学級を。子育て、高齢者、若い人たちに。 • ボランティアを育ててほしい。 • 無料で参加できる学習の場、社会参加の場。
行政に考えてほしい事	<ul style="list-style-type: none"> • 狭い道は一方通行に。 • 飛び出し防止柵、杭を減らせ。サ 	<ul style="list-style-type: none"> • どういう仕事、包括センター気軽に相談、西原65%周知。 	

	<p>イクリング道路。</p> <ul style="list-style-type: none"> •道路のデコボコ、坂道アップダウン苦労している。 •自転車のマナー悪い。 •防犯を増やしてほしい。 •変質者。 •緑(畑、樹木)を活用して地産地消を。 	<ul style="list-style-type: none"> •「自転車マナー」(バス、電車の車内放送並みにくり返す)(路面に表示) •市民プールが高い。(65才以上) 	
--	---	--	--

グループC

項目 ()は参加者が特に重要だと考えた項目に貼ったシールの数	困りごと	解決アイデア	
		地域で協力して行うこと	行政・社協にお願いすること
公共交通整備不足(5)	<ul style="list-style-type: none"> •はなバスがすごく不便。 •公共交通機関が不十分。 •坂が多いので移動が大変。 •坂道が多い。 •坂が多く買い物不自由。 •坂が多い、高齢になると外出も大変。 	<ul style="list-style-type: none"> •こういうふうに困っていると役所に伝える。 •はなバスの増便。(小型化?) 	<ul style="list-style-type: none"> •小回りのきく交通網整備に本腰を入れてほしい。 •乗合タクシーのような小回りのきく移動支援。 •はなバス(都市計画課)対象地域の説明会に出て新しい移動支援の形になるのではと期待した。 •悪路の整備。(レンガのでこぼこ)
情報弱者	<ul style="list-style-type: none"> •宅配、ネット注文などができない世帯が多い。 •インターネットが使えない人には不便な社会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> •ネットだけでなく丁寧な発信(紙ベース、FAX、TEL)ネット弱者と感じないですむような。 	<ul style="list-style-type: none"> •自治会未加入の方々への情報提供手法を検討してほしい。

自治会がない	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の活動が止まっている。(回覧板中止) 転居した人たちに情報が届かない。 町内会がない。あると何かあったときに家族構成がわかっているので状況がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会(ネットワーク)づくりの支援。 町内会、自治会の活動停止又は縮小について、活動全てを償行ではなく防災のみ特にするやり方で参加を募る。 地域活動への参加を勧める。 仕組みづくりについて寄り添って助ける。社協。 	<ul style="list-style-type: none"> ほっとネットコーディネーターを増やして欲しい。 少数の人の問題制度の狭間にある人などに視点を当てた活動を育てる。社協。
地域活動の困難さ(1)	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動するグループの人員が減っていく。 老人会も地元でなく友人関係で構成されて地元の人が変わらない。 個人情報があり、かかわりが難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由度を高くする。 ニーズ、マッチング、防災、時間。 福祉に対する関心をひとりでも多く持ってもらおう。(地道な啓発、勉強会嫌だという人が多いが) 地域に入り一緒に活動し、住民の活動を助ける人が必要。(社協) 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティソーシャルワーク(地域福祉コーディネーター)=ほっとネットの活用。 URや都営住宅には集会所があるが、住民だけなら無料、外部の人が入ると有料。無料にしたらどうだろうか。(はたらきかけ) 地域活動のためには場所が必要。使用料を無料にして欲しい。 空き家の活用で地域の拠点づくりを。 空き家の実態調査。使えそうなものを利用して欲しい。 空き家活用にあたっては、市民委員を入れて使いやすいくみづくりを。
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り。 何に困っているか把握し必要なところにつなげる。 高齢者クラブの参加減をチャレンジして増加運動を実施。(増やしている) 老人クラブをつくること。入り口、バス旅行、居場所づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者」～「若い人」共通 市の支援は使いづらい！ボランティアポイント制度の改善。 活動したポイントを付けるような制度をよりシンプルに利用し易く！ 市民活動がやりやすいように個人情報保護の運用を見直す。

		<ul style="list-style-type: none"> • 助け合い活動の活性化。 • 自治会とクラブ連協とのコラボにより意識を高めてもらう。 • つながりコーディネーターが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアをするためにポイントをつける必要があるか(足かせになっていないか)見直しを検討して。
近所のつながり不足(1)	<ul style="list-style-type: none"> • フレイル予防は素晴らしいが、その際の助成の見直しや、制度の見直しを！どんどん利用しやすいものに。 • 近隣とのつながりが無い。 • ご近所づきあいが難しい。(世代間の差) • 住居が高層化、転入出が多くてつながりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 昔のような濃いつながりは無理。災害の時など緊急時にはつながれるような新しいつながりを作る。 • 日頃からの声かけ。 • あいさつをしあう。(あいさつ運動) 	
若い人	<ul style="list-style-type: none"> • 若い人のボランティア参加が欲しい。親子でも参加しやすい方法を。 • 若い人たちの地域への無関心。(世代交代できない) • 若い人たちと近隣のつながりが無い。 • 子どもたちが地元の小中学校を卒業していないため若い子育て世代と接点がなくなってしまった。 • 子育て世代は現役で働いているので課題をあげにくい。 • 新町地区の小中学校区が別れてしまったので交流が難しくなってしまった。 • 地域の拠点に若い人が来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園、保育園、小中学校校庭でおたよりを配る。 • ピッコロ広場、ハピナスなどでチラシ配布。 • 若い人達の関心のある行事、情報の提供。 • 若い人達の活動に多世代の人たちも入れてもらう。 • 世代間交流の場をつくる。 	

<p>近所の店不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 近所の商店が少なくなっている。 • 近隣のお店が閉店して買い物が不便。 • 近所に買い物ができるスーパーがない。 • 買い物に困る。 • 近くのお店が減ってきている。買い物に困る。 • 空き店舗の増加。 • スーパーが閉店してしまい買い物が不便になった。 • コンビニだと高くつく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 御用聞き。(買い物支援) • 移動スーパー。(要、行政の支援) 	<ul style="list-style-type: none"> • 移動販売の実施。
<p>コミュニケーション(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症患者家族の苦悩について。 • ケアラーズに参加する人が少ない。 • せっかく入れた(特養老)うばすて感。ケアラーズカフェは空いている。 • 介護施設に入所させる家族の思いの複雑さ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 私設で掲示板を提供。(例：仙人の家) • ケアラーズカフェなど、利用する方に寄り添った対応。そういう雰囲気を出す。(ソフト面) • 情報不足。(ケアラーズカフェなど)やさしい場づくりが必要では。 • どなたでもどうぞという雰囲気が必要か。 • 自治会などおまつりで子ども向けにお菓子を配る時親向けに情報を発信。 • 校庭開放を放課後子ども教室の講師をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ケアラーズカフェに来れない人の為に訪問で傾聴する。相談に乗る。 • 社協のように、市に顔の見える地域担当を配置する。 • ボール遊びをやってもいい公園、整備。 • 一般コミュニティづくりだけでなく福祉コミュニティづくりに力を入れて。 • 一般的な生活課題だけでなく見えにくい(少人数の人)課題に地域の中で取り組み組織化。 • ケアラーに寄り添った理解が必要。 • 住民だけの集まりでなく専門性をもってコーディネートする人必要。(社協) • 不登校の子。親へのニーズ聞き取りをしてほしい。

<p>専門機関の情報発信不足(9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にわかりやすい説明ができていない。 ・相談機関の認知度が不足している。 ・包括の認知度が低い。 ・支援の情報が行きわたっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR、周知(継続的に) ・公共施設で市役所、HPを参照常設で閲覧できるPCをおく。 ・商店、クリニック、コンビニに協力してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市報の枚数を増やす。 ・庁内横断的な情報連携を。(圏域情報の一元化) ・包括の圏域ごとの情報誌(ペーパー)を発行する。サロン、イベント行政からのお知らせなど。
<p>拠点の認知不足(情報不足)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンがある認知度がいまいち。 ・地域の拠点が知られていない。周知の方法は？ ・地域の人々が集まる場所(コミュニティカフェ)の必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動する。 ・ロコミ。 ・人材バンク、民生委員の有効活用。 	
<p>防災(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の取り組みの周知が不足している。 ・災害時の対応について。(不十分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、火、水と災害のみに特化した活動を自治会で行う。 ・向小の避難連絡に所属。自治会、高齢者クラブ、社会福祉連絡等。 ・防災訓練等紙面ですべて興味をもってみる人が少ない。身近な人に声をかけて一緒に参加する。 ・自治会同士のつながり。 ・避難所運協に退職した男性を誘う。(自助、共助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災目線でもっと公園を整備したらいいのでは。 ・雪も防災対策に入れて。 ・避難所になっている小中学校で防災イベントをひらく。(乾パンを配るなどetc)
<p>防犯(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(歩道)が暗い。(防犯) ・詐欺被害が多い。西東京市は狙われている！ ・不審者が出ることもある。 ・振り込め詐欺が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り込めサギに対する意識付け。(声掛け) ・安全安心いーなメールの登録。 ・サロンなどで情報の共有。 	

	<ul style="list-style-type: none">• 街灯が少なく夜間が危ない。• ふりこめ詐欺。• 点字ブロックで、つまづく。		
--	---	--	--

地域福祉計画・地域活動計画策定に伴う地区懇談会
結果報告書

発行・編集：西東京市健康福祉部生活福祉課

発行年月日：平成 30 年 3 月

〒202-8555 東京都西東京市中町 1 丁目 5 番 1 号（保谷庁舎）

電 話：042-438-4024（直通）

FAX：042-423-4321